

五所川原市 産業系施設整備計画

2020年3月
五所川原市

農林水産課 市浦総合支所 商工労政課
観光物産課 管財課

<目次>

1. 計画の目的	1
2. 本計画の位置付け	1
3. 計画期間	1
4. 対象施設	2
5. 産業系施設の現状	4
6. これまでの整備状況	5
7. 今後の整備方針	5
8. フォローアップの実施	8
個別票	9

1. 計画の目的

近年、本市を含む多くの地方公共団体においては、公共施設等の老朽化対策が大きな課題となっています。また、厳しい財政状況が続く中、今後、人口減少等により公共施設等の利用需要が変化していくことが予想されています。このことから、早急に公共施設等の全体の状況を把握し、長期的な視点をもって長寿命化等を計画的に行うことにより、財政負担の軽減・平準化を図るとともに、公共施設等の最適な配置を実現することが必要となっています。

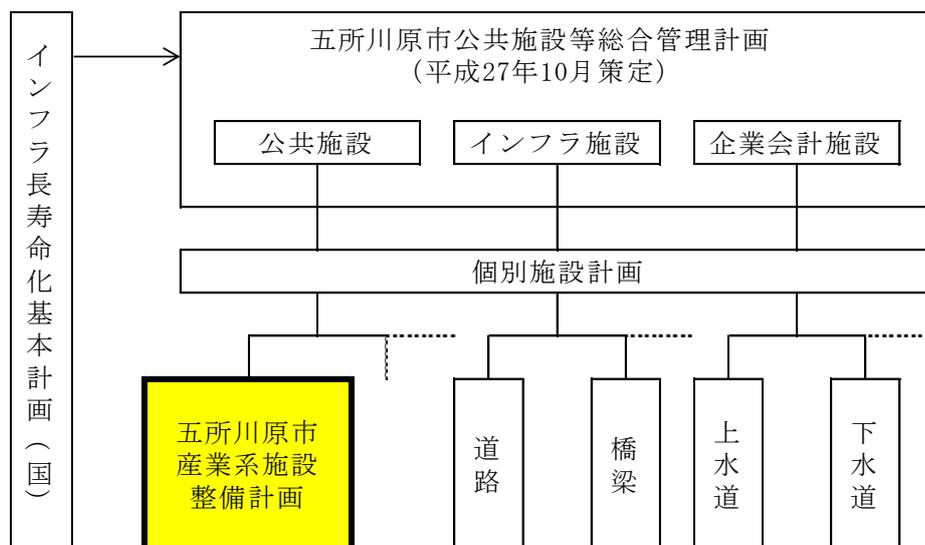
そのような中、国は2013年（平成25年）11月に「インフラ長寿命化基本計画」を策定し、各地方公共団体においても、このような国の動きと歩調を合わせ、速やかに公共施設等の総合的かつ計画的な管理を推進するための計画の策定に取り組むよう要請されたところです。

これらを踏まえ、本市では2015年（平成27年）10月に「五所川原市公共施設等総合管理計画」（以下「総合管理計画」といいます。）を策定し、基本的な方針を示しました。

今回策定しました「五所川原市産業系施設整備計画」（以下「本計画」といいます。）は、総合管理計画で示した基本的な方針を具現化するため、個別施設ごとに今後の方向性やスケジュール、方向性に伴う事業費などについて取りまとめたものであり、将来に向けて、保有する公共施設等を有効活用しつつ、施設保有量の適正化や計画的な保全による施設の長寿命化を図る取組の指針とするものです。

2. 本計画の位置付け

本計画は、総合管理計画に基づく実施計画である個別施設計画として位置付けます。



3. 計画期間

総合管理計画の計画期間は2044年度（令和26年度）までの30年間としていますが、本計画は、その第1期分として、2020年度（令和2年度）から2029年度（令和11年度）までの10年間とします。

なお、本市を取り巻く社会経済情勢の変化等により、見直しが必要な場合は適宜見直しを行っていきます。

4. 対象施設

本計画での対象施設は以下のとおりです。

No.	建物名称	所在地	延床面積 (㎡)	建築年 (年)	老朽化率 (%)
1	旧商工会館	相内	218.00	1974	191.7
2	市民学習情報センター	一ツ谷	998.01	2000	58.8
3	職業訓練施設	一ツ谷	452.61	2001	55.9
4	産業振興センター	相内岩井	1,748.16	1983	168.2
5	旧長橋地区農産物加工センター	福山字広富	178.87	1989	206.7
	旧長橋地区農産物加工センター倉庫		33.12	1994	173.3
6	旧木材工芸センター	相内岩井	379.00	1986	226.7
7	特産品加工センター	相内実取	399.00	1994	173.3
8	金木水稻共同育苗施設	金木町中柏木不動野	1,251.83	1994	68.4
	金木育苗培土供給施設		380.40	1995	80.6
9	金木野菜育苗施設	金木町芦野	240.00	1995	65.8
	金木野菜集出荷施設		730.00	1992	82.4
	金木野菜予冷施設		630.00	1995	73.5
10	広域新農業センター	毘沙門字上熊石	381.40	1973	94.0
	収穫物貯蔵庫		53.46	1981	260.0
	バイオ技術研究室		279.72	1992	73.7
	赤〜いりんごの優良種苗育成管理施設		132.49	1992	116.7
	増殖施設		333.00	1993	87.1
	催芽兼作業所		82.81	1993	122.7
	花き繁殖温室		163.80	1993	87.1
	無菌苗養成温室		210.60	1993	79.4
	野菜ハウス		330.00	1979	132.3
	作業場兼資材置場		100.00	1981	260.0
11	市浦育苗ハウス	相内岩井	2,592.00	1993	79.4
	市浦育苗施設管理棟事務所		59.00	1993	112.5
12	特用林産施設	飯詰字影日沢	39.74	1994	118.2
	特用林産施設		14.90	1994	173.3
13	玉清水牧野第二農具庫	戸沢字玉清水	660.00	1998	71.0
	玉清水牧野監視所		58.00	1978	175.0
	玉清水牧野畜舎		227.00	1978	247.1
	玉清水牧野農機具格納庫		127.41	1981	125.8
14	毘沙門牧野家畜保護施設 (看視舎)	毘沙門字上熊石	262.44	1982	223.5
	毘沙門牧野家畜保護施設 (肥育牛舎)		538.43	1994	152.9
	毘沙門牧野環境保全施設 (便所)		19.04	1993	180.0
	毘沙門牧野牧場用機械格納庫		149.05	1993	180.0
	毘沙門牧野圧雪車等機械格納庫		99.37	1999	140.0

No.	建物名称	所在地	延床面積 (㎡)	建築年 (年)	老朽化率 (%)
15	畜産展示室・肉製品加工室	毘沙門字上熊石	213.64	1995	104.2
	ふれあい牧場研修棟 (1号棟)		70.38	1996	160.0
	ふれあい牧場研修棟 (2号棟)		70.19	1996	160.0
	ふれあい牧場研修棟 (3号棟)		67.59	1996	160.0
	ふれあい牧場小動物小屋		16.56	1996	141.2
	ウインターガーデン		351.90	2000	52.6
16	金木牧野看視舎	金木喜良市小田川山	79.49	1976	183.3
	金木牧野畜舎		824.39	1976	141.9
	金木牧野農具庫		202.40	1976	141.9
	金木牧野燃料庫		16.20	1976	141.9
	金木牧野第1ポンプ場		10.00	1976	115.8
	金木牧野第2ポンプ場		10.00	1976	115.8
17	実取牧野飼育牛センター	相内実取	794.00	1976	183.3
	実取牧野農具庫		161.00	1995	166.7
	実取牧野種雄牛舎		408.00	1995	147.1
18	岩井牧野管理舎	相内岩井	91.00	1981	162.5
	岩井牧野機械格納庫		139.00	1978	168.0
	岩井牧野看視舎		64.00	1981	162.5
	岩井牧野避難舎		204.00	1981	162.5
19	古館牧野看視舎	磯松古館	73.00	1983	154.2
20	第二長根山牧野避難舎	太田山の井	178.00	1981	162.5
21	市浦農水産加工センター	十三羽黒崎	320.78	1986	226.7
22	アワビ中間育成施設	脇元野脇	407.43	1988	103.2
23	十三地区水産物荷さばき場	十三羽黒崎	199.10	1991	170.6
	十三地区水産物荷さばき施設 (増設分)		105.99	2005	88.2
	市浦貯氷庫		15.73	1995	166.7
24	サケマス管理舎	磯松磯松山	135.00	1978	280.0
25	十三地区水産物冷凍施設	十三通行道	238.49	2017	20.0
26	野営所救護所	金木町芦野	66.62	1988	133.3
	野営所救護所便所		17.39	1988	94.1
合 計			20,303.93		

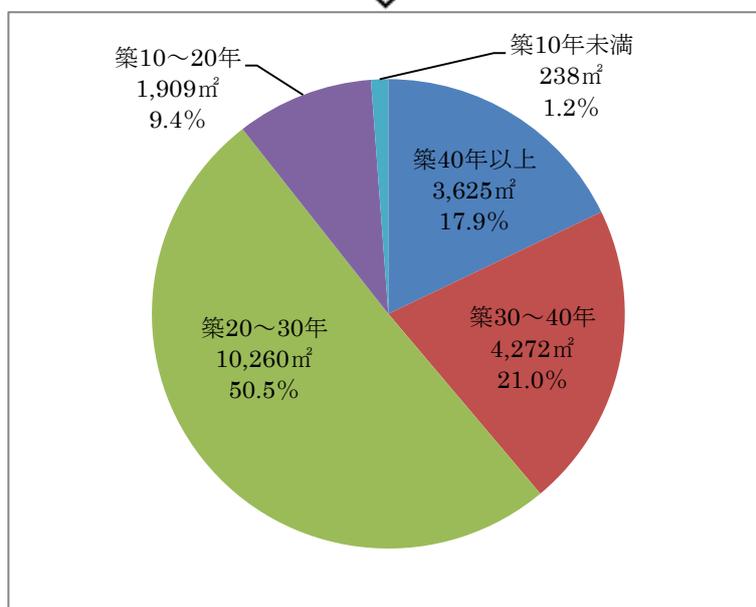
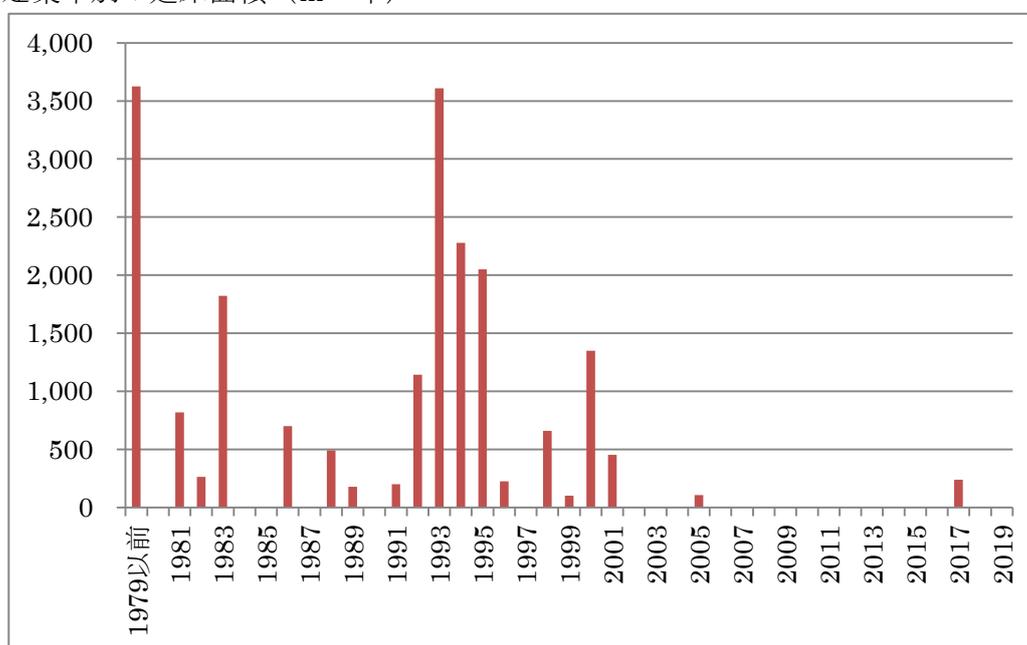
※老朽化率は、経過年数を耐用年数で割った値 (令和2年4月1日時点)

5. 産業系施設の現状

本市の産業系施設は、法定耐用年数に違いがあるものの、建築年別の整備状況を見ると、1992年（平成4年）から1995年（平成7年）にかけて集中的に整備されているため、今後の更新、見直し時期の集中につながっています。また、築40年以上が17.9%、築30～40年が21.0%、築20年～30年が50.5%、築10～20年が9.4%、築10年未満が1.2%であり、延床面積は20,303.93㎡となっています。

施設数の約73.1%、延床面積（10,286.79㎡）の約50.7%が法定耐用年数を超え、これまで特産品加工センターと市民学習情報センターについては、大規模な改修・整備を実施したところですが、それ以外の施設については、小規模な修繕により施設を維持してきました。福祉性能については、市民学習情報センターは高いですが、その他の施設においては低いものとなっています。施設の条例が廃止となり使用されていない施設は3施設、このほか休止中は1施設あります。使用者数の減少の理由を見ると、市町村合併による類似施設の存在や施設の設置目的を充分果たしたことなどが考えられます。

建築年別の延床面積（㎡・年）



6. これまでの整備状況

最近の主な整備・改修状況は以下のとおりです。(総事業費が10,000千円以上の主な事業)

事業名	特産品加工センター改修事業
事業年度	2017年度(平成29年度)
事業内容	冷却設備更新工事
総事業費	12,142千円(財源:地方債11,100千円、一般財源1,042千円)

事業名	市民学習情報センター改修事業
事業年度	2013年度(平成25年度)
事業内容	外壁・屋上の防水処理、ボイラー等修繕
総事業費	32,261千円(財源:国庫30,450千円、一般財源1,811千円)

7. 今後の整備方針

(1) 適正配置・適正規模の考え方

本市が保有する施設の機能を適切に保つためには、維持管理や運営に係る経常的な費用が継続して必要になるため、法定耐用年数を大幅に超えた施設のあり方を検討する必要があります。施設の条例が廃止となり使用されていない施設は危険度に応じて除却していくこととします。施設の利用者数が減少した施設で類似施設が存在する場合や設置目的を果たした施設は、条例の廃止とともに売却、貸借又は用途転用を行います。

(2) 優先順位の考え方

①施設の利用者が多いこと、②施設の運営方法や施設の機能の向上により使用状況が改善される見込みがあること、③市内に類似施設がなく希少性が高いこと、④整備の目的が明確で、目的に合致した使用が継続的に行われていること、⑤地域防災において災害拠点や避難施設として指定され代替できる施設がないこと、などを優先するものとします。

(3) ユニバーサルデザイン化の推進

「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の推進に関する法律」(バリアフリー法)や「ユニバーサルデザイン2020行動計画」に基づき、全ての人にやさしいユニバーサル社会を構築するため、高齢者、障害者に留まらず、誰もが利用しやすい公共施設のユニバーサルデザイン化を推進します。今後、更新や改修を行う際は、ニーズを踏まえ、ユニバーサルデザインを考慮し実施していきます。

(4) 施設の管理方針

点検・診断・修繕等の履歴を保存することにより、維持管理・修繕・更新を含む老朽化対策等に活かし、施設の長寿命化を図るなどトータルコストの縮減・平準化を目指し、計画的に実施していきます。

(5) 整備方針

存続する施設については、長寿命化を図るため、小破修繕を行い維持していきます。大規模な改修等が必要となる場合は用途を廃止し、建物の解体又は売却を検討します。使用可能であるものの、利用者数が減少した施設を廃止とする場合は民間委譲を行い、転用不可能な施設は除却します。

①今後 10 年の整備方針

No.	施設名称	方向性	行動計画	管理方法	説明
1	旧商工会館	廃止	除却	—	老朽化により除去します。
2	市民学習情報センター	存続	現状維持	直営	現在の建物を維持します。
3	職業訓練施設	存続	現状維持	指定管理	現在の建物を維持します。
4	産業振興センター	存続	現状維持	直営	大規模改修が必要な場合は、廃止等を検討します。
5	旧長橋地区農産物加工センター	廃止	民間委譲	—	民間に貸付又は売却を検討します。
6	旧木材工芸センター	存続	現状維持	直営	現在の建物を維持します。
7	特産品加工センター	存続	現状維持	指定管理	現在の建物を維持します。
8	金木水稻共同育苗施設	廃止	民間委譲	—	民間に売却を検討します。
9	金木野菜育苗施設	廃止	民間委譲	—	民間に売却を検討します。
10	広域新農業センター	存続	現状維持	包括的民間委託	補助事業処分制限期間を経過したものについては除却します。
11	市浦育苗ハウス	廃止	民間委譲	—	民間に売却を検討します。
12	特用林産施設	廃止	除却	—	建物の解体時期を検討します。
13	市営玉清水牧野	存続	現状維持	直営	現在の建物を維持します。
14	市営毘沙門牧野	存続	現状維持	直営	現在の建物を維持します。
15	ふれあい牧場研修施設	廃止	民間委譲	—	民間に貸付又は売却を検討します。
16	市営金木牧野	廃止	除却	—	建物の解体時期を検討します。
17	市営実取牧野	存続	現状維持	指定管理	現在の建物を維持します。
18	市営岩井牧野	存続	現状維持	指定管理	現在の建物を維持します。
19	市営古館牧野	存続	現状維持	指定管理	現在の建物を維持します。
20	市営第二長根山牧野	存続	現状維持	指定管理	現在の建物を維持します。
21	市浦農水産加工センター	廃止	民間委譲	—	民間に売却を検討します。
22	アワビ中間育成施設	廃止	除却	—	建物の解体時期を検討します。
23	十三地区水産物荷さばき施設	存続	一部改修	直営	建物の一部を改修します。
24	サケマス管理舎	廃止	除却	—	建物の解体時期を検討します。
25	十三地区水産物冷凍施設	存続	現状維持	指定管理	現在の建物を維持します。
26	野営所救護所	廃止	除却	—	建物の解体時期を検討します。

※施設の方向性等の説明

方向性	行動計画	説明
存続	現状維持	現状のまま維持（小破修繕を含む。）
	大規模改修	長寿命化等のため、建物を全面的に改修
	一部改修	長寿命化等のため、建物の一部を改修
	複合機能化	分類の違う目的の施設の機能を取り入れる
	集約化	同じ目的の複数の施設を一つに集約
	広域化	他自治体と共用
	更新	老朽化等のため建物を更新（非現地建替えを含む。）
廃止	転用	施設機能を廃止し他の用途へ転用
	民間委譲	民間事業者等へ譲渡（売却を含む。）
	除却	施設を解体撤去、又は解体時期を検討

※施設の管理方法の説明

管理方法		説明
直営		市の直営 （個別の業務ごとに私法上の契約で委託する方式を含む。）
民間委託	指定管理	指定管理者による管理運営方式
	包括的民間委託	複数の業務や施設を包括的に委託する方式
	P F I など	公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う方式

②改修等の今後のスケジュール

No.	施設名称	今後のスケジュール									
		2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029
1	旧商工会館			除却							
5	旧長橋地区農産物加工センター	民間委譲									
8	金木水稲共同育苗施設	民間委譲									
9	金木野菜育苗施設	民間委譲									
11	市浦育苗ハウス	民間委譲									
12	特用林産施設	除却（解体時期検討）									
15	ふれあい牧場研修施設	民間委譲									
16	市営金木牧野	除却（解体時期検討）									
21	市浦農水産加工センター	民間委譲									
22	アロビ中間育成施設	除却（解体時期検討）									
23	十三地区水産物荷さばき場								改修		
24	サケマス管理舎	除却（解体時期検討）									
26	野営所救護所	除却（解体時期検討）									

③改修等の事業費及び財源

No.	施設名称	事業年度(年度)	事業費(千円)	事業費内訳(千円)	財源(千円)
1	旧商工会館	2022	5,600	解体工事等(5,600)	地方債(5,000) 一般財源(600)
23	十三地区水産物荷さばき場	2027	4,900	屋根等改修(4,900)	地方債(4,900)

※事業費等は、調査・設計の結果を受けて変動する場合があります。

④10年後(2029年度)の施設状況比較

総延床面積(㎡)		維持管理コスト(千円)	
現在	2029年度	現在※	2029年度
20,303.93	11,056.11	96,287	41,405

※2015年度から2017年度までの3か年平均

8. フォローアップの実施

本計画を着実に推進していくため、PDCAサイクル(P l a n (計画)、D o (実行)、C h e c k (評価)、A c t i o n (改善))に基づき、計画の評価・見直しを行いながら実施していきます。

所管課	市浦総合支所
-----	--------

1. 施設の概要及び目的

施設名称	旧商工会館	総延床面積 (㎡)	218.00
所在地	五所川原市相内 70 番地 3	代表建築年 (年)	1974
構成施設	旧商工会館		
施設の目的	市浦消防署公用車用タイヤ収納施設、市浦商工会の物置施設、相内青年団（相内虫送り：青森県無形民俗文化財）の活動拠点として利用		

2. 施設の現況

(1) 品質面（建物性能）※品質面の合計は 100 点満点（表 1 参照）（単位：点）

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
旧商工会館	4	8	6	4	2	24

(2) 供給面（単位： ）

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
—	—	—	—

(3) 財政面（支出：施設に係る維持管理コスト）（単位：千円）

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
57	55	54	—

(4) 財政面（収入：利用料等収入）（単位：千円）

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
0	0	0	—

3. 基本的な方針

方向性	廃止	行動計画	除却	管理方法	—
<p>【施設の状況及び課題】</p> <p>耐用年数を超過し経年劣化が進行しています。</p> <p>本施設は、大規模な改修は実施しておらず、小規模な修繕については相内青年団が実施していますが、老朽化が著しい状況となっています。</p>					
<p>【基本的な方針の考え方】</p> <p>本施設は、市浦消防署公用車用タイヤ収納施設、市浦商工会の物置施設、相内青年団（相内虫送り：青森県無形民俗文化財）の活動拠点施設として利用していますが、老朽化が著しいため、これらの機能を類似施設に移転し、解体します。</p>					

所管課	商工労政課
-----	-------

1. 施設の概要及び目的

施設名称	市民学習情報センター	総延床面積 (㎡)	998.01
所在地	五所川原市字一ツ谷 503 番地 5	代表建築年 (年)	2000
構成施設	学習情報センター		
施設の目的	市民が充実した生活を送るべく自らが行う能力開発その他の学習活動を支援し、及び市民福祉の増進を図る。		

2. 施設の現況

(1) 品質面 (建物性能) ※品質面の合計は 100 点満点 (表 1 参照) (単位: 点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
学習情報センター	20	24	8	16	10	78

(2) 供給面 (施設延利用人数) (単位: 人)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
25,623	24,153	24,856	20,210

(3) 財政面 (支出: 施設に係る維持管理コスト) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
11,864	11,545	11,277	9,441

(4) 財政面 (収入: 利用料等収入) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
2,079	2,150	2,231	2,141

3. 基本的な方針

方向性	存続	行動計画	現状維持	管理方法	直営
<p>【施設の状況及び課題】</p> <p>本施設は独立行政法人雇用・能力開発機構の廃止に伴い、当該建物を機構から譲受したことにより、2011 年度 (平成 23 年度) から市の保有施設となりました。現在の施設運営形態は市直営で、施設の利用受付、清掃等一部管理運営業務を公益社団法人五所川原市シルバー人材センターに委託しています。譲受に際し外壁等の修繕が行われたため、しばらくは大規模修繕の予定はありませんが、ボイラーや自動ドア、施設内音響設備等の経年による劣化に対する修繕及び更新は必要です。</p> <p>【基本的な方針の考え方】</p> <p>本施設の譲受の条件として、機構の施設であった時と同様、主に事業主・事業主団体等の職業訓練や研修会・講習会等に利用できるものとして運用することを求められ、この先の利用者数の極端な減少が考えづらいことから、施設を存続、現状維持とします。</p> <p>施設管理については、現在の市直営から指定管理に変更することも考えられますが、更なる検討が必要となるため、今後しばらくは市直営のままとします。</p>					

所管課	商工労政課
-----	-------

1. 施設の概要及び目的

施設名称	職業訓練施設	総延床面積 (㎡)	452.61
所在地	五所川原市字一ツ谷 503 番地 5	代表建築年 (年)	2001
構成施設	職業訓練施設		
施設の目的	労働者の就業に必要な能力の開発及び向上を図る。		

2. 施設の現況

(1) 品質面 (建物性能) ※品質面の合計は 100 点満点 (表 1 参照) (単位: 点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
職業訓練施設	20	24	8	16	4	72

(2) 供給面 (施設延利用人数) (単位: 人)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
1,125	1,455	1,105	1,005

(3) 財政面 (支出: 施設に係る維持管理コスト) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
865	955	865	570

(4) 財政面 (収入: 利用料等収入) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
40	85	80	72

3. 基本的な方針

方向性	存続	行動計画	現状維持	管理方法	指定管理
<p>【施設の状況及び課題】</p> <p>本施設は、隣接する市民学習情報センター (旧職業訓練センター) と同時期に建設され、市民学習情報センターと渡り廊下で連結しています。</p> <p>現在は指定管理施設として運用しており、市内で唯一認定職業訓練を行うことができる団体の「職業訓練法人五所川原職業訓練協会」が指定管理者になっています。</p>					
<p>【基本的な方針の考え方】</p> <p>本施設は、県基準に満たないとはいえ、資格検定や講習会等による利用者が年間 1,000 名を超えており、当地域には当該検定等が行える代替施設がないこともあり、施設は存続予定です。建物については、2001 年 (平成 13 年) 築の鉄骨造のため、耐用年数は 34 年となっており、10 年後も耐用年数内となるため、大規模改修等の予定はありません。</p> <p>管理方法については、現在の指定管理者が市内で唯一認定職業訓練を行うことのできる団体のため、特段の事由がない限り変更の予定はありません。</p>					

所管課	商工労政課
-----	-------

1. 施設の概要及び目的

施設名称	産業振興センター	総延床面積 (㎡)	1,748.16
所在地	五所川原市相内岩井 81 番地 87	代表建築年 (年)	1983
構成施設	産業振興センター		
施設の目的	地域住民の技術及び技能を積極的に活用し、産業の振興並びに雇用機会の創出を図り 住民生活の向上安定及び定住化の促進を図る。		

2. 施設の現況

(1) 品質面 (建物性能) ※品質面の合計は 100 点満点 (表 1 参照) (単位: 点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
産業振興センター	20	8	6	4	2	40

(2) 供給面 (施設延利用人数) (単位: 人)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
40	40	43	40

(3) 財政面 (支出: 施設に係る維持管理コスト) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
0	0	0	0

(4) 財政面 (収入: 利用料等収入) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
0	0	0	0

3. 基本的な方針

方向性	存続	行動計画	現状維持	管理方法	直営
<p>【施設の状況及び課題】</p> <p>本施設は、地域住民の雇用機会の創出等を目的とし、旧市浦村により設置されました。2004 年 (平成 16 年) に本施設を使用していた会社が撤退し、その後は空き施設となっていました。2010 年度 (平成 22 年度) に企業活動の促進及び育成並びに施設の提供 (設置条例第 3 条第 4 項) を目的とし、民間企業に当該施設の使用を許可しています。</p> <p>本施設は、耐用年数を大幅に経過しています。</p>					
<p>【基本的な方針の考え方】</p> <p>現在使用している企業からは使用料等を徴収していない上、本施設の改修等による市民の利益が少ないことから、大規模改修等は計画しません。今後の予定としては、本施設の老朽化による状況を確認しつつ、大規模な改修等が必要となる場合は用途廃止し、建物の解体を検討します。</p>					

所管課	管財課
-----	-----

1. 施設の概要及び目的

施設名称	旧長橋地区農産物加工センター	総延床面積 (㎡)	211.99
所在地	五所川原市大字福山字広富 165 番地 2	代表建築年 (年)	1989
構成施設	農産物加工センター、倉庫		
施設の目的	農産物の付加価値を高めることによって、農業の充実振興を図る。		

2. 施設の現況

(1) 品質面 (建物性能) ※品質面の合計は 100 点満点 (表 1 参照) (単位: 点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
農産物加工センター	20	8	6	4	2	40
倉庫	20	8	6	4	2	40

(2) 供給面 (年間延利用者数) (単位: 人)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
347	357	338	—

(3) 財政面 (支出: 施設に係る維持管理コスト) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
1,329	956	996	—

(4) 財政面 (収入: 利用料等収入) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
806	865	778	—

3. 基本的な方針

方向性	廃止	行動計画	民間委譲	管理方法	—
<p>【施設の状況及び課題】</p> <p>2018 年 (平成 30 年) 5 月末までは長橋地区住民協議会が指定管理者として運営していましたが、労働力不足による辞退届があり、同年 6 月からは市の直営で運営しています。実際の稼働期間はりんご収穫後の 11 月～3 月までと期間が短く、ジュース製造、ジャム製造、みそ製造及び製粉は住民協議会の加工部会が住民等から依頼を受けて作業している状況で、機械器具を自ら操作して農産物の加工技術を学ぶ者は皆無に等しくなりました。</p> <p>【基本的な方針の考え方】</p> <p>施設及び機械の老朽化や地元作業員の高齢化による労働力不足で体制を継続するのは困難です。また、利用者数が低下しているのは施設の設置目的である、「農産物の付加価値を高めることによって、農業の充実振興を図る」加工の技術習得は十分に果たされたことによると解されることから、当該施設を廃止し、普通財産として民間への貸付け又は売却を検討します。</p>					

所管課	市浦総合支所
-----	--------

1. 施設の概要及び目的

施設名称	旧木材工芸センター	総延床面積 (㎡)	379.00
所在地	五所川原市相内岩井 81 番地 87	代表建築年 (年)	1986
構成施設	旧木材工芸センター		
施設の目的	市浦消防署公用車タイヤ収納施設、市浦商工会の物置施設、相内青年団 (相内虫送り : 青森県無形民俗文化財) の活動拠点として利用		

2. 施設の現況

(1) 品質面 (建物性能) ※品質面の合計は 100 点満点 (表 1 参照) (単位: 点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
旧木材工芸センター	20	8	6	4	2	40

(2) 供給面 (年間延利用者数) (単位: 人)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
449	397	334	0

(3) 財政面 (支出: 施設に係る維持管理コスト) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
1,057	1,048	1,051	5

(4) 財政面 (収入: 利用料等収入) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
102	108	104	0

3. 基本的な方針

方向性	存続	行動計画	現状維持	管理方法	直営
<p>【施設の状況及び課題】</p> <p>山村資源活用施設として、就業機会の確保及び地域産業の活性化を図ることを目的に活用してきましたが、その役割を十分に果たされたことから 2018 年度 (平成 30 年度) に廃止しています。</p> <p>1986 年度 (昭和 61 年度) 建築の本施設は、耐用年数を超過し経年劣化が進行しています。</p>					
<p>【基本的な方針の考え方】</p> <p>建物は現状維持とし倉庫として有効活用していきます。</p>					

所管課	観光物産課
-----	-------

1. 施設の概要及び目的

施設名称	特産品加工センター	総延床面積 (㎡)	399.00
所在地	五所川原市相内実取 287 番地 1057	代表建築年 (年)	1994
構成施設	特産品加工センター		
施設の目的	地域に賦存する資源を高度に活用し、就業機会の確保及び地域産業の活性化を図り、また豊かな自然環境、伝統文化等の地域資源を活用した多様な形での都市との交流を促進し、住民の定住化及び地域の活性化を図る。		

2. 施設の現況

(1) 品質面 (建物性能) ※品質面の合計は 100 点満点 (表 1 参照) (単位: 点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
特産品加工センター	20	8	6	16	2	52

(2) 供給面 (単位:)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
—	—	—	—

(3) 財政面 (支出: 施設に係る維持管理コスト) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
市浦総合交流促進センターで一括管理	市浦総合交流促進センターで一括管理	市浦総合交流促進センターで一括管理	市浦総合交流促進センターで一括管理

(4) 財政面 (収入: 利用料等収入) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
0	0	0	0

3. 基本的な方針

方向性	存続	行動計画	現状維持	管理方法	指定管理
【施設の状況及び課題】 老朽化率が高いものの、2017 年度 (平成 29 年度) に改修工事を行っており、現状、特段の課題はありません。					
【基本的な方針の考え方】 本施設の指定管理は 2011 年度 (平成 23 年度) から㈱トーサムが行っており、同社の運営にはしじみの加工施設が欠かせないため、存続が望ましいです。					

所管課	農林水産課
-----	-------

1. 施設の概要及び目的

施設名称	金木水稲共同育苗施設	総延床面積 (㎡)	1,632.23
所在地	五所川原市金木町中柏木不動野 48 番地 38	代表建築年 (年)	1994
構成施設	金木水稲共同育苗施設、金木育苗培土供給施設		
施設の目的	水稲用種苗の育成及び供給。水稲育苗用培土の生成及び供給		

2. 施設の現況

(1) 品質面 (建物性能) ※品質面の合計は 100 点満点 (表 1 参照) (単位: 点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
金木水稲共同育苗施設	20	24	8	4	2	58
金木育苗培土供給施設	20	16	8	4	2	50

(2) 供給面 (育苗培土・苗) (単位: トン)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
1,050.5	1,033.5	1,034	—

(3) 財政面 (支出: 施設に係る維持管理コスト) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
0	0	0	—

(4) 財政面 (収入: 利用料等収入) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
16	15	15	—

3. 基本的な方針

方向性	廃止	行動計画	民間委譲	管理方法	—
<p>【施設の状況及び課題】</p> <p>市町村合併前の金木町が事業主体となって、つがるにしきた農業協同組合 (旧津軽北部農業協同組合) の所有地に補助事業を活用し建設したもので、建設当初から合併前まで無償で貸し付けて利用されていたものです。現在は行政財産使用料を納めてもらっています。</p>					
<p>【基本的な方針の考え方】</p> <p>借用者のつがるにしきた農業協同組合に譲渡を行う前提で事務を進めていきます。</p>					

所管課	農林水産課
-----	-------

1. 施設の概要及び目的

施設名称	金木野菜育苗施設	総延床面積 (㎡)	1,600.00
所在地	五所川原市金木町芦野 365 番地 321	代表建築年 (年)	1995
構成施設	金木野菜育苗施設、金木野菜集出荷施設、金木野菜予冷施設		
施設の目的	野菜種苗の育成及び供給。野菜の集出荷、予冷及び選果		

2. 施設の現況

(1) 品質面 (建物性能) ※品質面の合計は 100 点満点 (表 1 参照) (単位: 点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
金木野菜育苗施設	20	24	8	4	2	58
金木野菜集出荷施設	20	16	8	4	2	50
金木野菜予冷施設	20	24	8	4	2	58

(2) 供給面 (野菜苗) (単位: 本)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
195,937	172,951	147,461	—

(3) 財政面 (支出: 施設に係る維持管理コスト) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
0	0	0	—

(4) 財政面 (収入: 利用料等収入) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
138	134	134	—

3. 基本的な方針

方向性	廃止	行動計画	民間委譲	管理方法	—
<p>【施設の状況及び課題】</p> <p>市町村合併前の金木町が事業主体となって、つがるにしきた農業協同組合（旧津軽北部農業協同組合）の所有地に補助事業を活用し建設したもので、建設当初から合併前まで無償で貸し付けて利用されていたものです。現在は行政財産使用料を納めてもらっています。</p>					
<p>【基本的な方針の考え方】</p> <p>借用者のつがるにしきた農業協同組合に譲渡を行う前提で事務を進めていきます。</p>					

所管課	農林水産課
-----	-------

1. 施設の概要及び目的

施設名称	広域新農業センター	総延床面積 (㎡)	2,267.28
所在地	五所川原市大字毘沙門字上熊石1番地11	代表建築年 (年)	1992
構成施設	広域新農業センター、収穫物貯蔵庫、バイオ技術研究室、赤〜いりんごの優良種苗育成管理施設、増殖施設、催芽兼作業所、花き繁殖温室、無菌苗養成温室、野菜ハウス、作業場兼資材置場、温室ハウス		
施設の目的	赤〜いりんごの育苗・栽培管理、ウイルスフリー苗の供給等による農業振興		

2. 施設の現況

(1) 品質面 (建物性能) ※品質面の合計は100点満点 (表1参照) (単位: 点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
広域新農業センター	4	16	10	4	2	36
収穫物貯蔵庫	20	8	6	4	2	40
バイオ技術研究室	20	24	8	4	2	58
赤〜いりんごの優良種苗育成管理施設	20	8	6	4	2	40
増殖施設	20	16	8	4	2	50
催芽兼作業所	20	8	6	4	2	40
花き繁殖温室	20	16	8	4	2	50
無菌苗養成温室	20	16	6	4	2	48
野菜ハウス	4	8	8	4	2	26
作業場兼資材置場	20	8	6	4	2	40
温室ハウス	4	8	8	4	2	26

(2) 供給面 (つくねいも苗) (単位: 戸)

過去3か年			将来推計
2015年度	2016年度	2017年度	2029年度
20	20	20	20

(3) 財政面 (支出: 施設に係る維持管理コスト) (単位: 千円)

過去3か年			将来推計
2015年度	2016年度	2017年度	2029年度
2,987	2,994	2,779	2,800

(4) 財政面 (収入: 利用料等収入) (単位: 千円)

過去3か年			将来推計
2015年度	2016年度	2017年度	2029年度
2,559	1,425	814	814

3. 基本的な方針

方向性	存続	行動計画	現状維持	管理方法	包括的民間委託
【施設の状況及び課題】 主要な事業のうち、ウイルスフリー苗の供給については、県全体での振興方針とも併せ拡充を企図すべきものです（現状はツクネイモが主）。赤～いりんごについては平成 30 年 2 月 9 日に品種登録されたレッドキューほか、計 3 種の原木保存及び生産振興に向けた継続的な栽培研究・管理が必要です。これらにより、農業技術・バイオ技術の専門性を有した管理者を要します。 また、種苗供給に要する施設維持管理のための小規模の改修・補修の必要性は継続的に発生します。					
【基本的な方針の考え方】 今後も引き続いて 1 次産業の多様化が求められて行く上で、地域に根ざした産学官の中継拠点としての本施設は重要な位置を占めるため、小破修繕等を行い、機能維持に努めます。					

所管課	農林水産課
-----	-------

1. 施設の概要及び目的

施設名称	市浦育苗ハウス	総延床面積 (㎡)	2,651.00
所在地	五所川原市相内岩井 81 番地 531	代表建築年 (年)	1993
構成施設	市浦育苗ハウス、管理棟事務所		
施設の目的	野菜種苗の育成及び供給		

2. 施設の現況

(1) 品質面 (建物性能) ※品質面の合計は 100 点満点 (表 1 参照) (単位: 点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
市浦育苗ハウス	20	16	6	4	2	48
管理棟事務所	20	8	6	4	2	40

(2) 供給面 (苗) (単位: トン)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
95.86	96.77	71.45	—

(3) 財政面 (支出: 施設に係る維持管理コスト) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
0	0	0	—

(4) 財政面 (収入: 利用料等収入) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
58	56	56	—

3. 基本的な方針

方向性	廃止	行動計画	民間委譲	管理方法	—
<p>【施設の状況及び課題】</p> <p>市町村合併前の市浦村が事業主体となって補助事業を活用し建設したもので、建設当初から合併前まで無償で貸し付けて利用されていたものです。現在は行政財産使用料を納めてもらっています。</p>					
<p>【基本的な方針の考え方】</p> <p>借用者のつがるにしきた農協に譲渡を行う前提で事務を進めていきます。</p>					

所管課	農林水産課
-----	-------

1. 施設の概要及び目的

施設名称	特用林産施設	総延床面積 (㎡)	54.64
所在地	五所川原市飯詰字影日沢 54 番地 1	代表建築年 (年)	1994
構成施設	特用林産施設 2 か所		
施設の目的	きのこの栽培施設		

2. 施設の現況

(1) 品質面 (建物性能) ※品質面の合計は 100 点満点 (表 1 参照) (単位: 点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
特用林産施設	20	8	6	4	2	40
特用林産施設	20	8	6	4	2	40

(2) 供給面 (施設延利用人数) (単位: 数)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
0	0	0	—

(3) 財政面 (支出: 施設に係る維持管理コスト) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
0	0	0	—

(4) 財政面 (収入: 利用料等収入) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
0	0	0	—

3. 基本的な方針

方向性	廃止	行動計画	除却	管理方法	—
【施設の状況及び課題】 特用林産施設は条例の廃止により使用されていません。					
【基本的な方針の考え方】 既に条例が廃止となっている施設であるため、解体時期を今後検討していきます。					

所管課	農林水産課
-----	-------

1. 施設の概要及び目的

施設名称	市営玉清水牧野	総延床面積 (㎡)	1,072.41
所在地	五所川原市戸沢字玉清水 296 番地 3	代表建築年 (年)	1998
構成施設	第二農具庫、監視所、畜舎、農機具格納庫		
施設の目的	畜産振興を図る。		

2. 施設の現況

(1) 品質面 (建物性能) ※品質面の合計は 100 点満点 (表 1 参照) (単位: 点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
第二農具庫	20	24	8	4	2	58
監視所	4	8	6	4	2	24
畜舎	4	8	6	4	2	24
農機具格納庫	20	8	8	4	2	42

(2) 供給面 (施設延利用頭数) (単位: 頭)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
903	1,570	1,265	1,493

(3) 財政面 (支出: 施設に係る維持管理コスト) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
32,942	32,832	31,110	5,613

(4) 財政面 (収入: 利用料等収入) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
138	238	202	202

3. 基本的な方針

方向性	存続	行動計画	現状維持	管理方法	直営
<p>【施設の状況及び課題】 玉清水牧野は、五所川原地区の畜産農家が主に利用しており、農家は減少傾向にありますが新規で就農する者もあり、放牧頭数は横ばいとなっています。牛の届出伝染病対策として使用している牧野です。</p> <p>【基本的な方針の考え方】 草地は肥培管理により生産量を維持し、簡易な草地更新技術等の導入による産草量の安定化を図ります。牧場用機械、農機具及び施設は老朽化等により修繕・整備が必要ですが、随時行うことで現状を維持していきます。</p>					

所管課	農林水産課
-----	-------

1. 施設の概要及び目的

施設名称	市営毘沙門牧野	総延床面積 (㎡)	1,068.33
所在地	五所川原市大字毘沙門字上熊石1番地105	代表建築年 (年)	1982
構成施設	家畜保護施設 (看視舎)、家畜保護施設 (肥育牛舎)、環境保全施設 (便所)、牧場用機械格納庫、圧雪車等機械格納庫		
施設の目的	畜産振興を図る。		

2. 施設の現況

(1) 品質面 (建物性能) ※品質面の合計は100点満点 (表1参照) (単位: 点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
家畜保護施設 (看視舎)	20	8	6	4	2	40
家畜保護施設 (肥育牛舎)	20	8	6	4	2	40
環境保全施設 (便所)	20	8	6	4	2	40
牧場用機械格納庫	20	8	6	4	2	40
圧雪車等機械格納庫	20	8	6	4	2	40

(2) 供給面 (施設延利用頭数) (単位: 頭)

過去3か年			将来推計
2015年度	2016年度	2017年度	2029年度
5,334	4,936	5,103	6,021

(3) 財政面 (支出: 施設に係る維持管理コスト) (単位: 千円)

過去3か年			将来推計
2015年度	2016年度	2017年度	2029年度
3,568	3,582	2,590	2,590

(4) 財政面 (収入: 利用料等収入) (単位: 千円)

過去3か年			将来推計
2015年度	2016年度	2017年度	2029年度
847	790	817	817

3. 基本的な方針

方向性	存続	行動計画	現状維持	管理方法	直営
<p>【施設の状況及び課題】</p> <p>毘沙門牧野は、五所川原地区の畜産農家が主に利用しており、農家は減少傾向にありますが新規で就農する者もあり、放牧頭数は横ばいです。地形がなだらかで集落からも近いことから使用しやすい牧野です。また、五所川原地区で特定家畜伝染病が発生した場合の埋却処分地となっています。</p> <p>【基本的な方針の考え方】</p> <p>草地は肥培管理により生産量を維持し、簡易な草地更新技術等の導入による産草量の安定化を図ります。牧場用機械、農機具及び施設は老朽化等により修繕・整備が必要ですが、随時行うことで現状を維持していきます。特定家畜伝染病の患畜又は疑似患畜の死体については、原則として、患畜又は疑似患畜と判定した後72時間以内に、発生農場又はその周辺 (人家、水源、河川及び道路に近接しない場所であって、日常人及び家畜が接近しない場所に限り) において埋却することとなり、発生農場での埋却処分ができない場合に備え、市有地を確保しておく必要があります。</p>					

所管課	農林水産課
-----	-------

1. 施設の概要及び目的

施設名称	ふれあい牧場研修施設	総延床面積 (㎡)	790.26
所在地	五所川原市大字毘沙門字上熊石1番地105	代表建築年 (年)	1995
構成施設	畜産展示室・肉製品加工室、ふれあい牧場研修棟 (1・2・3号棟)、ふれあい牧場小動物小屋、ウインターガーデン		
施設の目的	自然とふれあいながら農林業への理解を深める。		

2. 施設の現況

(1) 品質面 (建物性能) ※品質面の合計は100点満点 (表1参照) (単位: 点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
畜産展示室・肉製品加工室	20	8	6	4	2	40
ふれあい牧場研修棟(1・2・3号棟)	20	8	6	4	2	40
ふれあい牧場小動物小屋	20	8	6	4	2	40
ウインターガーデン	20	24	8	4	2	58

(2) 供給面 (施設延利用者数) (単位: 人)

過去3か年			将来推計
2015年度	2016年度	2017年度	2029年度
1,973	1,817	1,753	—

(3) 財政面 (支出: 施設に係る維持管理コスト) (単位: 千円)

過去3か年			将来推計
2015年度	2016年度	2017年度	2029年度
10,247	8,171	8,172	—

(4) 財政面 (収入: 利用料等収入) (単位: 千円)

過去3か年			将来推計
2015年度	2016年度	2017年度	2029年度
2,269	2,114	1,977	—

3. 基本的な方針

方向性	廃止	行動計画	民間委譲	管理方法	—
【施設の状況及び課題】 ふれあい牧場研修施設は、自然とふれあいながら農林業への理解を深めるための施設として設置しましたが、年間を通しての利用が少ないため、使用料収入と施設維持に要する経費との均衡がとれず、財政負担が継続的に発生していることから、条例を廃止し利用を停止しています。					
【基本的な方針の考え方】 民間への貸付又は売却を検討します。					

所管課	農林水産課
-----	-------

1. 施設の概要及び目的

施設名称	市営金木牧野	総延床面積 (㎡)	1,142.48
所在地	五所川原市金木町喜良市小田川山国国有林内	代表建築年 (年)	1976
構成施設	看視舎、畜舎、農具庫、燃料庫、第1ポンプ場、第2ポンプ場		
施設の目的	畜産振興を図る。		

2. 施設の現況

(1) 品質面 (建物性能) ※品質面の合計は100点満点 (表1参照) (単位: 点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
看視舎	4	8	6	4	2	24
畜舎	4	8	8	4	2	26
農具庫	4	8	8	4	2	26
燃料庫	4	8	8	4	2	26
第1ポンプ場	4	8	10	4	2	28
第2ポンプ場	4	8	10	4	2	28

(2) 供給面 (施設延利用頭数) (単位: 頭)

過去3か年			将来推計
2015年度	2016年度	2017年度	2029年度
0	0	0	—

(3) 財政面 (支出: 施設に係る維持管理コスト) (単位: 千円)

過去3か年			将来推計
2015年度	2016年度	2017年度	2029年度
1,135	1,135	933	—

(4) 財政面 (収入: 利用料等収入) (単位: 千円)

過去3か年			将来推計
2015年度	2016年度	2017年度	2029年度
0	0	0	—

3. 基本的な方針

方向性	廃止	行動計画	除却	管理方法	—
<p>【施設の状況及び課題】</p> <p>1977年度 (昭和52年度) に完成した金木牧野は、金木地区の畜産農家の減少により放牧は2006年度 (平成18年度) を最後に、2007年度 (平成19年度) からは採草利用のみとなり、2011年度 (平成23年度) で採草利用も最後になりました。採草放牧地の現況は、機械造成したところはカヤが生い茂り、不耕起造成したところは天然林が自生してきています。看視舎と農具庫以外は老朽化が進み使用は不可能な状態です。</p> <p>【基本的な方針の考え方】</p> <p>現在、津軽森林管理署と国有林野貸付契約書を取交わしており、3年契約の更新時には金額に変動があるものの、返地を行わないと貸付料の負担が続くこととなります。返地の要件は工作物を撤去し、貸付当初の植林か天然高木の自生が確認できる状態でしたが、要件が緩和され、植林ができる状態への整地でも認められることとなりました。返地に向けた工作物の解体撤去と整地の時期を今後検討していきます。</p>					

所管課	農林水産課
-----	-------

1. 施設の概要及び目的

施設名称	市営実取牧野	総延床面積 (㎡)	1,363.00
所在地	五所川原市相内実取 287 番地 1070	代表建築年 (年)	1976
構成施設	飼育牛センター、農具庫、種雄牛舎		
施設の目的	畜産振興を図る。		

2. 施設の現況

(1) 品質面 (建物性能) ※品質面の合計は 100 点満点 (表 1 参照) (単位: 点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
飼育牛センター	4	8	6	4	2	24
農具庫	20	8	6	4	2	40
種雄牛舎	20	8	6	4	2	40

(2) 供給面 (施設延利用頭数) (単位: 頭)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
7,718	7,090	7,585	8,950

(3) 財政面 (支出: 施設に係る維持管理コスト) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
19,845	20,295	20,217	7,188

(4) 財政面 (収入: 利用料等収入) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
865	972	999	999

3. 基本的な方針

方向性	存続	行動計画	現状維持	管理方法	指定管理
<p>【施設の状況及び課題】</p> <p>実取牧野は、市浦地区の畜産農家が主に利用しており、農家は減少傾向ですが新規で就農する者もあり、放牧頭数は横ばいとなっています。地形がなだらかで集落からも近いことから、使用をしやすい牧野です。また、雌雄混牧地域で種雄牛を放牧し自然交配を行っています。</p>					
<p>【基本的な方針の考え方】</p> <p>草地は肥培管理により生産量を維持し、簡易な草地更新技術等の導入による産草量の安定化を図ります。牧場用機械、農機具及び施設は老朽化等により修繕・整備が必要ですが、随時行うことで現状を維持していきます。</p>					

所管課	農林水産課
-----	-------

1. 施設の概要及び目的

施設名称	市営岩井牧野	総延床面積 (㎡)	498.00
所在地	五所川原市相内岩井 81 番地 402	代表建築年 (年)	1981
構成施設	管理舎、機械格納庫、看視舎、避難舎		
施設の目的	畜産振興を図る。		

2. 施設の現況

(1) 品質面 (建物性能) ※品質面の合計は 100 点満点 (表 1 参照) (単位: 点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
管理舎	20	8	6	4	2	40
機械格納庫	4	8	8	4	2	26
看視舎	20	8	6	4	2	40
避難舎	20	8	2	4	2	36

(2) 供給面 (施設延利用頭数) (単位: 頭)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
6,592	7,017	6,711	7,919

(3) 財政面 (支出: 施設に係る維持管理コスト) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
10,161	11,159	10,907	10,907

(4) 財政面 (収入: 利用料等収入) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
734	972	891	891

3. 基本的な方針

方向性	存続	行動計画	現状維持	管理方法	指定管理
<p>【施設の状況及び課題】 岩井牧野は、市浦地区の畜産農家が主に利用しており、農家は減少傾向ですが新規で就農する者もあり、放牧頭数は横ばいです。地形がなだらかで集落からも近いことから、使用をしやすい牧野です。</p>					
<p>【基本的な方針の考え方】 草地は肥培管理により生産量を維持し、簡易な草地更新技術等の導入による産草量の安定化を図ります。牧場用機械、農機具及び施設は老朽化等により修繕・整備が必要ですが、随時行うことで現状を維持していきます。</p>					

所管課	農林水産課
-----	-------

1. 施設の概要及び目的

施設名称	市営古館牧野	総延床面積 (㎡)	73.00
所在地	五所川原市磯松古館 1 番地 1	代表建築年 (年)	1983
構成施設	看視舎		
施設の目的	畜産振興を図る。		

2. 施設の現況

(1) 品質面 (建物性能) ※品質面の合計は 100 点満点 (表 1 参照) (単位: 点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
看視舎	20	8	2	4	2	36

(2) 供給面 (施設延利用頭数) (単位: 頭)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2027 年度
2,517	1,903	2,087	2,463

(3) 財政面 (支出: 施設に係る維持管理コスト) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
2,201	2,290	2,236	2,236

(4) 財政面 (収入: 利用料等収入) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
282	265	283	283

3. 基本的な方針

方向性	存続	行動計画	現状維持	管理方法	指定管理
<p>【施設の状況及び課題】 古館牧野は、市浦地区の畜産農家が主に利用しており、農家は減少傾向ですが新規で就農する者もあり、放牧頭数は横ばいです。牧野内に風力発電の風車があり放牧牛への影響が心配されましたが、現在のところ特に問題はありません。</p>					
<p>【基本的な方針の考え方】 草地は肥培管理により生産量を維持し、簡易な草地更新技術等の導入による産草量の安定化を図ります。牧場用機械、農機具及び施設は老朽化等により修繕・整備が必要ですが、随時行うことで現状を維持していきます。</p>					

所管課	農林水産課
-----	-------

1. 施設の概要及び目的

施設名称	市営第二長根山牧野	総延床面積 (㎡)	178.00
所在地	五所川原市太田山の井 477 番地 1	代表建築年 (年)	1981
構成施設	避難舎		
施設の目的	畜産振興を図る。		

2. 施設の現況

(1) 品質面 (建物性能) ※品質面の合計は 100 点満点 (表 1 参照) (単位: 点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
避難舎	20	8	2	4	2	36

(2) 供給面 (施設延利用頭数) (単位: 頭)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
0	0	0	0

(3) 財政面 (支出: 施設に係る維持管理コスト) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
0	0	0	0

(4) 財政面 (収入: 利用料等収入) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
0	0	0	0

3. 基本的な方針

方向性	存続	行動計画	現状維持	管理方法	指定管理
<p>【施設の状況及び課題】</p> <p>第二長根山牧野は現在休止中ですが、市浦地区で特定家畜伝染病が発生した場合の埋却処分地として維持しています。</p>					
<p>【基本的な方針の考え方】</p> <p>特定家畜伝染病の患畜又は疑似患畜の死体については、原則として、患畜又は疑似患畜と判定した後 72 時間以内に、発生農場又はその周辺 (人家、水源、河川及び道路に近接しない場所であって、日常人及び家畜が接近しない場所に限り、) において埋却することとなり、発生農場での埋却処分ができない場合に備え、市有地を確保しています。</p>					

所管課	農林水産課
-----	-------

1. 施設の概要及び目的

施設名称	市浦農水産加工センター	総延床面積 (㎡)	320.78
所在地	五所川原市十三羽黒崎 133 番地 24	代表建築年 (年)	1986
構成施設	農水産加工センター		
施設の目的	地域の農水産資源を活用し、就業機会を確保することにより、地域産業の活性化及び所得の向上を図る。		

2. 施設の現況

(1) 品質面 (建物性能) ※品質面の合計は 100 点満点 (表 1 参照) (単位: 点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
農水産加工センター	20	8	6	16	2	52

(2) 供給面 (単位:)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
—	—	—	—

(3) 財政面 (支出: 施設に係る維持管理コスト) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
38	38	38	—

(4) 財政面 (収入: 利用料等収入) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
6	44	43	—

3. 基本的な方針

方向性	廃止	行動計画	民間委譲	管理方法	—
<p>【施設の状況及び課題】</p> <p>市浦農水産加工センターでは、しじみエキス味噌、しじみ佃煮などの加工品を製造しています。現在は行政財産として使用を許可しています。</p> <p>十三湖に近い場所であるため、屋根の腐食が早いことや、機械設備の老朽化が進んでいます。</p>					
<p>【基本的な方針の考え方】</p> <p>六次産業化を推進するため、行政財産としての使用許可は継続します。</p> <p>建物の改修や機械設備等の修繕、新規設置は行わないものとし、将来的には民間に売却することを検討していきます。</p>					

所管課	農林水産課
-----	-------

1. 施設の概要及び目的

施設名称	アワビ中間育成施設	総延床面積 (㎡)	407.43
所在地	五所川原市脇元野脇 16 番地 4	代表建築年 (年)	1988
構成施設	アワビ中間育成施設		
施設の目的	健全なアワビの稚貝を育成し、成員の採捕率を高めるとともに、漁民の所得向上と地元住民の雇用拡大を図る。		

2. 施設の現況

(1) 品質面 (建物性能) ※品質面の合計は 100 点満点 (表 1 参照) (単位: 点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
アワビ中間育成施設	20	8	8	16	2	54

(2) 供給面 (単位:)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
—	—	—	—

(3) 財政面 (支出: 施設に係る維持管理コスト) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
0	0	0	—

(4) 財政面 (収入: 利用料等収入) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
0	0	0	—

3. 基本的な方針

方向性	廃止	行動計画	除却	管理方法	—
<p>【施設の状況及び課題】 旧脇元漁協で使用していた施設であり、アワビの稚貝の管理の難しさや、施設の維持管理費用に見合う水揚げ量とならないため、中間育成から海面への直接放流となり、2011 年度 (平成 23 年度) から使用していません。 所在地が日本海に面しているため、建物の老朽化及び各種機械設備等の腐食が著しい状態です。 また、施設に海水を導水するため、海中及び陸上に給水管が埋設されていますが、長年に渡り放置していたため、使用不可能であると思われます。</p>					
<p>【基本的な方針の考え方】 解体時期を今後検討していきます。</p>					

所管課	農林水産課
-----	-------

1. 施設の概要及び目的

施設名称	十三地区水産物荷さばき場	総延床面積 (㎡)	320.82
所在地	五所川原市十三羽黒崎 135 番地	代表建築年 (年)	1991
構成施設	水産物荷さばき場、水産物荷さばき施設 (増設分)、市浦貯水庫		
施設の目的	しじみの鮮度保持による価格の維持と流通の円滑化を図る。		

2. 施設の現況

(1) 品質面 (建物性能) ※品質面の合計は 100 点満点 (表 1 参照) (単位: 点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
水産物荷さばき場	20	8	6	16	2	52
水産物荷さばき施設 (増設分)	20	16	6	16	2	60
市浦貯水庫	20	8	6	4	2	40

(2) 供給面 (単位:)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
—	—	—	—

(3) 財政面 (支出: 施設に係る維持管理コスト) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
34	22	34	34

(4) 財政面 (収入: 利用料等収入) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
58	59	87	67

3. 基本的な方針

方向性	存続	行動計画	一部改修	管理方法	直営
<p>【施設の状況及び課題】</p> <p>行政財産として十三漁協に使用を許可しています。1991 年 (平成 3 年) に建築した荷さばき場に、入札業務のためのスペースとして 2005 年 (平成 17 年) に荷さばき施設を増設したものです。2015 年 (平成 27 年) 12 月に火災が発生したため、2016 年度 (平成 28 年度) に荷さばき場を改築し、荷さばき施設 (増設分) をリフォームしました (貯水庫には被害なし)。施設 (構成施設含む) の使用頻度は非常に高く、入札、荷造、出荷等において日常的に使用しています。所在地が十三湖に面していることから屋根の腐食が早いため、10 年周期で改修を行うものとします。</p> <p>【基本的な方針の考え方】</p> <p>内水面漁業において重要な施設であるため、現状を維持しつつ必要に応じて修繕等を行いながら長寿命化を図ります。</p>					

所管課	農林水産課
-----	-------

1. 施設の概要及び目的

施設名称	サケマス管理舎	総延床面積 (㎡)	135.00
所在地	五所川原市磯松磯松山 (国有林)	代表建築年 (年)	1978
構成施設	管理舎、発電室、給水タンク、物置		
施設の目的	サケマスの稚魚増殖により放流量を増やし、恒久的な資源を確立することで、漁業所得の向上を図る。		

2. 施設の現況

(1) 品質面 (建物性能) ※品質面の合計は 100 点満点 (表 1 参照) (単位: 点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
管理舎	4	8	6	4	2	24
発電室、給水タンク、物置	4	8	6	4	2	24

(2) 供給面 (単位:)

過去3か年			将来推計
2015年度	2016年度	2017年度	2029年度
0	0	0	—

(3) 財政面 (支出: 施設に係る維持管理コスト) (単位: 千円)

過去3か年			将来推計
2015年度	2016年度	2017年度	2029年度
64	64	68	—

(4) 財政面 (収入: 利用料等収入) (単位: 千円)

過去3か年			将来推計
2015年度	2016年度	2017年度	2029年度
0	0	0	—

3. 基本的な方針

方向性	廃止	行動計画	除却	管理方法	—
<p>【施設の状況及び課題】 旧脇元漁協で使用していた施設であり、磯松川の水温が低いこと等から、サケマスのふ化率が伸びないことや稚魚放流後の回帰率の低迷等により漁獲量が増えず、2002年度 (平成14年度) から使用していません。所在地が磯松山の国有林地であるため、毎年、国へ土地使用料を支払っています。建物 (構成施設含む) の老朽化が著しく、施設に川の水を導水するため、約1kmにわたり道路沿いに給水管が埋設されています。施設に隣接している約300㎡の飼育池 (コンクリート製) があり、建物と一緒に解体撤去する必要があります。解体撤去において、事前に東北森林管理局と原状復帰 (緑化植栽等) について協議し、これに伴う予算措置も必要です。</p>					
<p>【基本的な方針の考え方】 解体撤去の時期を今後検討していきます。</p>					

所管課	農林水産課
-----	-------

1. 施設の概要及び目的

施設名称	十三地区水産物冷凍施設	総延床面積 (㎡)	238.49
所在地	五所川原市十三通行道 116 番地 1	代表建築年 (年)	2017
構成施設	水産物冷凍施設		
施設の目的	十三湖産大和しじみに付加価値を付けた「冷凍しじみ」の安定供給、六次産業化推進による雇用拡大及び漁業経営の安定を図る。		

2. 施設の現況

(1) 品質面 (建物性能) ※品質面の合計は 100 点満点 (表 1 参照) (単位: 点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
水産物冷凍施設	20	40	6	20	2	88

(2) 供給面 (単位:)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
—	—	—	—

(3) 財政面 (支出: 施設に係る維持管理コスト) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
—	—	—	21

(4) 財政面 (収入: 利用料等収入) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
—	—	—	0

3. 基本的な方針

方向性	存続	行動計画	現状維持	管理方法	指定管理
<p>【施設の状況及び課題】</p> <p>2017 年 (平成 29 年) 11 月に完成した施設であり、2018 年度 (平成 30 年度) から指定管理により、十三漁協が管理運営を行っています。</p> <p>所在地が日本海に面していることから屋根の腐食が早いため、10 年周期で改修を行う必要があります。</p>					
<p>【基本的な方針の考え方】</p> <p>新しい施設であるため、当面の間は修繕等の必要性はないと思われます。</p> <p>水産物の六次産業化において重要な施設であるため、現状を維持しつつ必要に応じて修繕等を行いながら長寿命化を図ります。</p>					

所管課	農林水産課
-----	-------

1. 施設の概要及び目的

施設名称	野営所救護所	総延床面積 (㎡)	84.01
所在地	五所川原市金木町芦野 363 番地 75	代表建築年 (年)	1988
構成施設	救護所、便所		
施設の目的	自然の地形や木立などを利用したアスレチック施設の救護所		

2. 施設の現況

(1) 品質面 (建物性能) ※品質面の合計は 100 点満点 (表 1 参照) (単位: 点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
救護所	20	8	2	4	2	36
便所	20	16	2	4	2	44

(2) 供給面 (単位:)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
—	—	—	—

(3) 財政面 (支出: 施設に係る維持管理コスト) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
—	—	—	—

(4) 財政面 (収入: 利用料等収入) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
0	0	0	—

3. 基本的な方針

方向性	廃止	行動計画	除却	管理方法	—
<p>【施設の状況及び課題】</p> <p>アスレチック施設、野営所救護所及び野営所救護所便所は条例の廃止により使用されていません。</p>					
<p>【基本的な方針の考え方】</p> <p>既に条例が廃止となっている施設であるため、解体時期を今後検討していきます。</p>					

【表 1】建物性能

評価基準に重みを掛けたものを建物性能とする。

評価基準		重み
①耐震性能	5点：新耐震基準（建築年が1981年（昭和56年）以降） 4点：旧耐震基準であるが耐震性有（Is値0.72以上） 3点：旧耐震基準であるが耐震性有（Is値0.6以上） 2点：旧耐震基準であるが今後耐震改修の計画有り 1点：旧耐震基準（建築年が昭和56年前）	× 4
②老朽化状況	法定耐用年数に対する建築経過年数の割合を以下の区分で評価。 5点：0～25%未満 4点：25～50%未満 3点：50～75%未満 2点：75～100%未満 1点：100%以上	× 8
③主体構造	5点：主体構造が鉄骨鉄筋コンクリート、鉄筋コンクリート、プレキャストコンクリート等 4点：主体構造が鉄骨造、軽量鉄骨造など 3点：主体構造が木造、コンクリートブロックなど	× 2
④大規模改修状況	5点：建築後10年以内の建物（大規模改修が不要） 4点：建物本体の改修を実施 3点：設備の改修を実施 2点：未実施だが、改修計画有り 1点：未実施	× 4
⑤福祉性能	エレベーター、多目的トイレ、車いす用スロープ、自動ドア、手すり、点字ブロックの6項目のうち、対応している項目数に応じて評価。 5点：4項目以上対応済 4点：3項目対応済 3点：2項目対応済 2点：1項目対応済 1点：未対応	× 2